会報
モンゴル
VOL.57 2010.12.10
●発行者　中山　喜重
●発行所　長野県モンゴル親善協会
長野市南県町532-3 労働会館内
TEL・FAX 026-235-6717

第21次団　神山 勝　撮影

「第21期定期総会」開催

定期総会を11月19日（金）開催いたしました。

—中山喜重 会長挨拶—

第21次定期総会にご出席いただき大変ご苦労様です。この一年間、会費納入をはじめ諸活動にご協力をいただいたことに感謝申しあげます。

昨年は20周年の節目と言うことでダルハン県労使代表団の招請、記念レセプション等開催させていただきました。総会では20年を経過し、これからは植林に特化した活動を進めていくことをご確認いただき、5月に団を派遣してまいりました。

モンゴル国は、砂漠化対処国家行動計画に記された砂漠化の定義でいうと、国土の90％が砂漠化の脅威にさらされているといわれています。

今回、植林した場所はダルハン市から先、ロシア国境まで70キロのトジンナルスという地籍です。ここは、かつては森林地帯でしたが山林火災及び皆伐によって草原と化し、このまま放置すれば間違いなく砂漠化する所です。

植えた樹種は赤松400本です。わずか400本ですが、モンゴルの大地に植林をしただけでなく、人々の心にも植えたと思っています。今、大統領が日本に来ていますが、大統領も国民に木を植えようと訴えたと聞いています。

私たちの活動とモンゴルの人々の力によって、砂漠化が抑制されモンゴル国の環境がよくなり、強いては地球環境改善にも寄与し、大陸からの黄砂が無くなればとも思っています。

引き続き会費納入をはじめ諸活動へのご協力をお願いし、あいさつに代えさせていただきます。

提出議案は満場一致承認決定された。

第21次事業計画

基本方針

砂漠化防止、緑化推進のため「モンゴル国に信州の森を創ろう」をキャッチフレーズに植林を重点とした活動をする。

具体的活動

次の事業活動を行う。

1. 第22次モンゴル国訪問団の派遣。
2. モンゴルからの留学生の支援体制強化。
3. モンゴル国内及び県内在住のモンゴル人とのネットワークの構築。
4. モンゴル国の大学と交流のある県内各大学との連携。
5. 各種イベントへの参加。
6. 「会報モンゴル」の発行と「ホームページ」の活用。

をする。

以上の活動に伴う収支予算として、9446，495円（前年実績比434，737円減）を計上した。

引き続いてエルデネビレグ・ウヤンガさんから講話をいただきました。